

## 第4学年国語科学習指導案

- 1 単元名 ごんぎつね読み語り ～ 教えてあげる，ごんってこんなきつねだよ ～  
教材名 「ごんぎつね」 新美南吉 (東京書籍 小学校4年下)

### 2 単元とその指導について

#### (1) 教材観

本教材は、いたずら好きのひとりぼっちの小ぎつねごんと同じくひとりぼっちになった兵十が登場する物語である。主人公のごんは兵十の母親の死をきっかけに、兵十をなくさめ、喜ばせようと行動するが、その思いも空しくごんの心は兵十には届かない。それどころか、最終的には兵十から撃たれてしまう。このようにこの物語は心を通じ合わせることでできない悲しさを描いている。児童は、ごんのとった行動が意外な展開になってしまうことに驚きと悲しみをもつて読み進めていくことであろう。

また、本教材は、「わたし」が語り手となり伝承風に書き進められている。児童は一人の読み手としてごんの視点に立ったり、兵十の視点に立ったりしながら登場人物の心情や心の揺れ動き、場面の移り変わりを読むことができる。加えて、独話や心内語などを用いて登場人物の心情が描かれ、さらに美しい情景描写があるなど生き生きとした表現が随所に見られるため、児童は楽しみながら想像豊かに読み進めていくことができる教材だと考える。また、作品全体に流れる美しさや悲しさから、児童は物語に引き込まれ、そして没入し、読むことの楽しさを味わい、さらに読み広げていこうとする意欲をもつのに適した教材だといえる。

#### (2) 児童観

本学級の児童は11人の少人数である。朝の読書タイムでは、心待ちにして冒険ものなどの長文の物語に親しむ子も数名いる。1学期に戦争に関する本を読み広げた経験はもっているが、心のふれあいや悲しみを描いたような感動作品にふれた経験はまだまだ少ないと思われる。週4回のスピーチタイムでは自分の言いたいことを話したがる傾向にあり、相手の話を受けて話すことや話し手の一番言いたいことは何かに目を向けることなどを指導してきている。書くことに関して苦手意識をもっている子が多く、日記や行事の作文に取り組みさせることで少しでも抵抗がなくなるように支援しているところである。

これまでの国語科の学習における、物語教材「こわれた千の楽器」では場面ごとに音読の工夫を話し合うことで読み深めを行った。言葉に着目して読んでいくことを意識させることができた。「夏のわすれもの」では、大切だと思う文を見つけ出しながら出来事の流れを捉え、物語の盛り上がりについて考える活動を行った。出来事の流れを捉えることはできるが、場面の移り変わりや登場人物の心情を叙述を基に豊かに想像することは十分にできているとはいえない。友達の考えを聞き 感覚的に反応しているところが多く、教師の切り返しや揺さぶりなどで叙述に返らせることで読みを補ってきた。また、話し合い活動は好きだがじっくりと書くことで自分の考えを深めることを苦手としている児童が多い。

#### (3) 指導観

指導にあたっては、「ごんぎつね」の学習に入る前に関連図書コーナーを設置したり、読み聞かせを行ったりして新美南吉の作品にふれさせる。新美南吉が描き出す人と人、人と動物のふれあいからは、世の中には悲しいこともあるけれど悪いことばかりではないという温かさが伝わってくる。子どもたちの心に響くものとなるであろう南吉童話の温かさを感じながら学習に入っていきたい。そして、家族に「ごんぎつね読み語り」をプレゼントするという目的意識を持たせ、意欲的に学習活動に取り組みせたい。

読み深めの段階では、場面ごとに「ごんはどんなきつねか」を話し合うことでごんの心情や心の動き、場面の移り変わりを読み取らせたい。一人学びではワークシートに言葉のマップ作りや表情絵作りなどを取り入れ主体的に読めるように工夫する。話し合い活動では、児童が提案し、みんなで検討していく形をとる。そのなかでは自分の考えのもととなる言葉や事柄などに着目した理由付けを大切に扱っていきたい。さらに、お互いが意見を交流することで友達の考えのよさを認め、また自分の読みを確かなものとさせていきたい。話し合いで読み深めたことは、「ごんぎつね読み語り」として、ある日のごんを知らせる文に書きまとめさせる。文は手紙風(家族に知らせる)、詩風、吹き出し風など自分の好きな方法で取り組みさせる。

まとめる段階では、「読み語り集」を紹介し合い感想を交流する「ごんぎつね読み語り会」を行い、今までの学習を振り返りながら物語の世界に浸らせたい。そして、家族に読み語りのプレゼントをすることで達成感を味わわせたい。最後に、新美南吉の他の作品で読みたいものを読み、読書紹介カードを書いたり、スピーチタイムなどで学級のみんなに紹介したりする場を設定し、読み広げを図っていきたい。

(4) 言語活動について

ア 「ごんぎつね読み語り」

(ア) 場面ごとに読み深めたことを「語り」として文に書きまとめ、1冊の「語り集」を作る。書き方は、誰に語るのか決めて、手紙風、詩風、吹き出し風など自分の好きな方法で書く。

「読み手」の立場で物語を読む視点を持ち、ごんの言動や情景などの言葉に着目して登場人物の性格や心情を想像することができる。

読み取ったことを書きまとめることで、再度自分の読みを確かめ、深めることができる。

(イ) 仕上げた「読み語り集」を基にして、「語り会」を行い、感想を交流する。

今までの学習を振り返って感想を交流することで、友達と自分の読みの共通点や相違点に気付き、さらに物語を読み深め、味わうことができる。

イ 話し合い活動

章ごとに2～3人組で、ごんがどんなきつねか読み取ったことを提案し、それを基に広げ深める話し合い活動を行う。みんなの話し合いの前に2人での対話活動を取り入れる。

「ごんはどんなきつねか」という柱で話し合いを進めるので、話し合いが焦点化され、叙述を基にした個々の読みを確かめたり、深めたりすることができる。

ウ 読書紹介

新美南吉が書いた他の作品を読んで読書紹介を行い、読み広げたり、比べたりする。

「ごんぎつね」と同作者の他の作品を読み比べることで、作者の思いに気付くことができる。

また、「ごんぎつね」をより深く読み味わうことができる。

スピーチタイムで「おすすめの本」紹介を行うことで、読書への興味・関心を高め、読み広げへとつなげることができる。

3 単元の指導目標

- (1) 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて叙述を基に想像しながら読むことができるようにする。
- (2) 「ごんぎつね読み語り会」や読書紹介を通して、新美南吉の作品世界を味わうことができるようにする。

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	ア 進んで「ごんぎつね読み語り」を作ったり、新美南吉の作品を読んだりしている。【「C読むこと」 内容(1)カ】
話す・聞く能力	イ ごんがどんなきつねなのか理由を挙げながら自分の考えを話したり、自分と友達の考えを比べながら聞いたりしている。 【「A話すこと・聞くこと」 内容(1)イ オ】
書く能力	ウ 読み深めたことを基に、ごんの性格や気持ちなどを紹介する文を書いている。【「B書くこと」 内容(1)ア】
読む能力	エ 場面の移り変わりに注意しながら、ごんや兵十の性格や気持ちの変化、情景について叙述を基に想像して読んでいる。 【「C読むこと」 内容(1)ウ】 オ 読み取った内容について、自分の考えをまとめ、一人一人の考え方に違いがあることに気付いている。【「C読むこと」 内容(1)オ】

5 単元計画(全16時間 本時8/16)

	主な学習活動	教師の指導・支援	評価とその方法
1	物語を読んで心に残ったことを発表する。 ・物語の内容を想像する。 ・全文を通読し、物語の大体をつかむ。 ・初発の感想を書き、交流する。	「村はずれの～」の一文や題名、挿絵から物語の内容を想像させる。 物語がどのように展開するのか登場人物の言動に注意しながら教師の音読を聞く。 物語が6つの章で構成され、中心人物がごんと兵十であることをつかませる。 心に残った章を中心に感想を書かせ、感想を交流させることで物語に関心をもたせる。	・題名からどんなキツネが出てくる物語か想像している。【発言】 ・物語のあらすじをつかみ、心に残ったことを中心に感想を書いている。【ワーク・発言】
2	新出漢字や語句について知る。	わからない語句は挿絵や前後の文からおおよその意味を考えさせたり、辞書で調べさせたりして教科書に書き込ませておく。また、短冊にして教室に掲示しておく。	・分からない言葉を見つけ、推測したり、辞書で調べたりしている。【観察・教科書の書き込み】
3 4	学習の計画を立てる ・物語の大まかな流れを読み取る。 ・読みの課題を考え、話し合う。 ・学習のおおまかな計画を立て、見通しをもつ。	各自、章ごとの出来事を短い言葉でまとめ、みんなで考えを出し合わせて物語の大まかな流れをつかませる。 章ごとに「ごんがどんなきつねか」話し合っ て読みを深めていき、読み取ったことを「語り」として文に書きまとめていくことを知らせる。 書き方は、手紙風(家族に知らせる文)、詩風、吹き出し風などの中から好きな方法を選んで取り組み、出来上がったものは家族にプレゼントしたり、図書室に置いたりすることを知らせ、学習の見通しをもたせ、活動への意欲をもたせる。 教室に新美南吉の作品のコーナーを設置し、関連図書にふれる環境を整えておく。	・ごんの行動に着目し、章ごとの出来事をつかんでいる。【ワーク・発言】 ・学習のおおまかな計画が分かり、見通しをもっている。【観察】
5	ごんがどんなきつねか章ごとに考えをもつ。 ・一人読み ・グループの話し合い <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 10px auto;">ごんは、どんなきつねだろ</div>	章ごとに「ごんはどんなきつねか」自分の考えをもたせる。 自分が好きな章ごとにグループを作り、ごんがどんなきつねか話し合わせ、スピーチ提案に備えさせておく。	・ごんの行動や心内語に着目して、どんなきつねか考えている。【ワーク・発表】 ・グループ内で進んで話し合っている。【発言・観察】
6	ごんの境遇や性格をつかみ、いたずらをしているごんの気持ちを読み取る。(第1章)	場面ごとに「ごんがどんなきつねか」自分の考えを書き込めるワークシートを用意しておく。 「少しはなれた～」「あなをほって」「ひとりぼっちの」「昼でも夜でも」「ちよいと」「草の葉の上に～」などに着目し、ごんの境遇や性格をつかみ、ごんの気持ちを想像するように促す 「ぬすとぎつねめ」に着目させ、兵十のごんに対する見方に気付かせる。 なぜごんが人間にいたずらをするのか問う。	・ごんが人間とかかわりをもちたくて、いたずらをしていることを読み取っている。【ワーク・発言・語り】

7	<p>兵十の母親の葬式を目にしたごんの様子や、あなの中で考えたことを基に、後悔するごんの気持ちを読み取る。 (第2章)</p>	<p>情景描写と心情を結びつけるなどして読み深めさせたい。 兵十のおっかあは、「・」の会話文の接続詞(それで、ところが、だから)に着目させ、ごんの思い込みをどんどん膨らませている様子に気づかせたい。また、ごんの優しさや素直さを読み取らせる。 どうしてごんの気持ちが変わったのか問う。</p>	<p>・自分のいたずらと兵十のおっかあの死とを結びつけて考え、後悔するごんの優しさや素直さを読み取っている。 【ワーク・発言・語り】</p>
8 本 時	<p>ごんが兵十に償いをしに行く様子を読み取り、兵十へ思いを寄せていくごんの気持ちを読み取る。 (第3章)</p>	<p>「まず一つ」「次の日には」「次の日も、その次の日も」「その次の日には」の繰り返しの表現や、「走って」「投げこんで」「そっと」「置いて」などの表現、また、償い物の変化からごんの気持ちを想像するように助言する。 どうしてごんが繰り返し償いをしに行くのか問う。</p>	<p>・兵十への償いの内容や繰り返しの言葉に着目し、ごんの兵十への気持ちの深まりを読み取っている。 【ワーク・発言・語り】</p>
9	<p>兵十と加助の後をつけていくごんの様子や神様のしわざと言われた時のごんの様子から、ごんの期待感ややるせなさを読み取る。 (第4・5章)</p>	<p>ごんの行動を表す「かくれて、じっと」「二人の後をつけて・」 「しゃがんで」の言葉に気づかせ、ごんが2人の話を聞きたくてたまらない様子や気持ちを想像するように促す。掲示物を用意しておき、ごんの位置を確認する。 どうして、ごんは2人に近づいて行ったのか問う。 「ふみふみ」と「ふみながら」と比較することで兵十に自分の気持ちを少しでもわかってほしいと思うごんの気持ちを読み取らせたい。また、「おれ」の繰り返しや「引き合わない」の言葉に着目させ、ごんのやるせない気持ちに気付かせたい。 なぜごんはつまらないと思ったのか問う。</p>	<p>・2人の会話を聞いているごんの様子や心内語、2人とごんの位置関係などから、兵十に気付いてもらいたいというごん的心情を読み取っている。 【ワーク・発言・語り】</p>
10	<p>ごんと兵十の心の通じ合いについて感想を交流する。 ・けなげなごんの様子を読み取る。 ・兵十の心の変化を読み取る。 (第6章)</p>	<p>兵十の言動を順に追い、また、ごんの呼称の変化からも兵十の心の変化をつかむように助言する。また、倒置法や「ばたりと取り落としました」の言葉から心の通じ合いについて迫っていきたい。 最後にうなずいたごんの表情を想像することで、兵十とごんは心が通じ合ったかどうか読み深めさせたい。 最後の一文の効果について問いかける。</p>	<p>・兵十の言動を手がかりに、ごんの思いは兵十に届いたのか自分なりに考えている。 【ワーク・発言・語り】</p>
11	<p>読み語りをまとめる。</p>	<p>今までの学習を振り返り、全文を通しての「語り」を書き、学習のまとめとさせる。 表紙や後書きなどを書き、自分だけの「ごんぎつね語り」を仕上げさせる。</p>	<p>・「ごんぎつね読み語り」を今までの学習を振り返って楽しみながらまとめている。 【観察・語り】</p>

12 13	「ごんぎつね」読み語り会をする。 ・グループで読み語りを紹介し合う。 ・ごんぎつねについて読後の感想を交流する。	各自が仕上げた読み語りをグループで紹介し合い、よかったこと、思ったことなどを中心に感想を交流させる。 読後の感想を交流することを確認する。 家族にいつ読み語りをするのかを確認させ、準備をするように促す。その際、必ず聞いた感想をカードに書いてもらうことを確認する。	・今までの学習を振り返り、「ごんぎつね」について自分の読みを語っている。【発言】 ・進んで家族に読み語りをしている。【感想カード】
14 15 16	新美南吉の他の作品を読み味わう。 ・読みたい本を選んで読んで、紹介カードを書く。 ・紹介された本を読む。	新美南吉はどんな人がインターネット等を使って調べようを促す。 新美南吉の他の作品と「ごんぎつね」の共通点や相違点を探して読むように促す。 読書紹介カードを用意しておく。 スピーチで本の紹介をすることを知らせ、各自、聞き手に伝わる工夫をして紹介することを確認する。(ポスターを作ったり、好きな場面を音読したりするなど) 友達が紹介した作品を読んだら読書カードにシールを貼るようにして読書への意欲を高める。	・新美南吉の生い立ち等を進んで調べている。【観察】 ・作品のよさが伝わるように発表している。【スピーチ】 ・新美南吉の作品を進んで読んでいる。【読書カード】

## 6 本時の指導

(1) 目 標 ごんはどんなきつねだろう

(2) 指導目標 「ごんはどんなきつねなのか」話し合うことで、ごんの兵十への気持ちの深まりを読み取っている。

(3) 評価規準 「ごんがどんなきつねなのか」兵十への償いの内容や繰り返しの言葉、ごんの心内語に着目し、豊かに想像することができる。

(4) 展 開 (8 / 16)

選	学習活動	指導・支援 *評価
導 入	1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。	前時に書いたごんがいたずらをして後悔した気持ちが分かる「語り」を児童に紹介させることで、学習の継続を意識させ、本時の学習の意欲付けを図る。
	めあて ごんはどんなきつねだろう(第3章)	
展 開	2 学習場面を音読する。	ごんがどんなきつねか分かる表現を見付けながら、各自で音読するように促す。
	3 ごんはどんなきつねか話し合う。 一人学び(事前学習)	事前に自分の考えを書き込めるワークシートを用意しておき、書き込みをさせておく。(家庭学習) ・ ごんはどんなきつねか、ごんの行動や様子、心内語に着目しながら考えるように助言しておく。 ・ 担当グループにはグループ内で考えをまとめさせておく。また、提案用のキーワードを書いた短冊を用意させておく。

